

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200236		
法人名	ウェル恵明会(株)		
事業所名	グループホームるびなすコート		
所在地	静岡県浜松市東区積志町 1878		
自己評価作成日	H25年 2月 6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?acti on kouhyou detail 2010 022 kani =true&Ji gyosyoCd=229
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成25年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>寄り添うケア、寝たきりを作らない、おむつに頼らないを理念にご利用者様お一人おひとりに合わせた介護サービスの提供をさせて頂きながら、ご利用者様が安心して安全に楽しく暮らしていただきたいと思います。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>2011年3月開設、2年を経過した当該グループホームは法人代表の「利用者各位が尊厳をもった自己本位の自立を目指して快適な生活をしていただけるように」との願いがホーム管理者を始め職員全員に徹底され、具体的には事業所理念を遂行する事とのベクトル併せが出来ています。広く、採光が良い明るい共用空間での職員の温かな眼差しと目配りの利いたきびきびとした動作も印象的です。利用者同士が互いに思いやり、穏やかに過ごして居られる場面を拝見出来ました。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時のオリエンテーションや毎月のミーティング、勉強会により共有し、実践につなげている	事業所の理念「寄り添うケア、寝たきりを作らない、おむつに頼らない」を実践するために、朝礼時にはヘッドコピーを全員で唱和し、看護師・栄養士をはじめ専門職のシフトにも配慮しての極め細かな体制がとられています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の敬老会やお祭り、公民館まつりに参加させて頂いてご近所の方が気軽に声をかけて下さるようになった	自治会や公民館で行われる諸行事には利用者の参加のほか、職員レベルの行事への協力も進んで行い地域に根ざすグループホームとしての存在が知られています。利用者の散歩時など、互いに挨拶し合えるようです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の敬老会に講師として招いて頂き、認知症予防の為に食事について講演させて頂いた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月、第三金曜日に開催し、活動報告をさせて頂きながら話し合いの中で意見をいただいている	一時、途絶えがちでございました運営推進会議も9月からは隔月、実施されています。地域包括や民生委員も参加する月も有り、適切な議事進行内容も記録されています。	自治会の役員をはじめ地域の方々との交流は、頻繁に行われていますが運営推進会議への最近の出席は記録に有りません。会議は施設の現状を地域へ発信する絶好の機会ですので、出席メンバーの更なる検討を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談し、さまざまなアドバイスを頂いている	法人代表、自ら市本庁や区役所へ出向き、連絡等に関しては円滑に行われています。ときには困難事例の解決に関しても行政の意見を聴いています。市側からの要請で利用者の緊急受け入れなども行われています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵をかけたり、行動を抑制することなく自由に過ごしていただいている	個人の生活歴等を理解しての寄り添うケアを実施する事は、利用者の尊厳を守る事であり、身体拘束は存在しないとの信念が、全職員に行きわたっています。小さな不安をも取り除く事で、自立支援にも役立っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング時に学び、考え、周知し実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度をご利用中の利用者様を通して学ぶ機会をつくり、理解することが出来ている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分説明をさせて頂き、分からない事疑問に思う事など尋ねそ、それに関して納得して頂けるように説明をさせて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加を通じて意見や要望を聞ける機会を設けている	運営推進会議のほか、ご家族が面会に来られた時など、利用者の様子をお知らせしながら、意見・要望の吸収に努め、また、運営法人が年1回、介護者へのアンケートを実施しその結果を事業所にフィードバックし、ホーム長・職員が一体になって、その反映に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや勉強会を始め、出勤・退勤時に社長と話が出来る機会を設け 聞くことが出来ている	職員の仕事に関する満足度を上げるようホーム長がクッションになり、発言し易い場を作っているようです。、誰もが参加し易い計画的な会議開催などを実施。利用者に関する事は臨機応変に対応を鉄則にしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社の目標を打ち出し、個々の勤務状況の把握に努め、評価し給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会をつくり、勉強会などに反映させることに努め個々のスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設に訪問し、交流する機会を設け会談を通じて今後活かす事ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お試し利用を通して雰囲気に馴染んでいたが、観察・記録を細かく付け寄り添い個々にあったサービスの提供により安心して過ごしていただける関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のニーズを聞き取り理解したうえで十分な説明をさせて頂き、いつでも面会できる環境作りと電話やお便りを通して近況の報告をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設に入居させることの罪悪感を取り除き、入居することによりお互いが良い関係を取り戻すことが出来る環境作りを実施		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分の居場所をここを見つけ、出来ることを減らさない支援と必要とされている喜びを持ってもらえる関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	暮らしの拠点が変わっただけ、家族や本人それぞれの時間を大切にすることで良い関係を続けていけるように支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望により いつ、どなたでも面会頂ける環境作りに努めている	以前、近所に住んでいた馴染みの人や一緒に働いていた人が面会に来て下さる事で、その利用者の、未だ知る事が出来なかった生活歴が理解できるので、その関係を大事に見守り支援に努めていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	より良い関係が築けるように居室の位置なども検討するなど常に最善の方法を探り支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアに訪問して頂いている 相談があれば相談や支援していく		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に合わせたサービスを提供するために随時話し合い検討している	例えば、計画作成者(ケアマネージャー)は現場に居る職員の小さな気付きまでも大切に聞いたり、介護支援記録の詳細にまで目を通し、本人本位の寄り添うケアの手法を考え提案し職員と検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族とのアセスメントやモニタリングを通して、何気ない会話からの聞き取りなどからも常に把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常の係わりの中から少しの変化や気づきを大切に、記録に残すことで現状の把握につながっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活の中で見えた課題やケアのあり方を家族の面会時に話したり、カンファレンスを開催し介護計画に反映している	常に事業所理念を念頭に置いての寄り添う介護こそ、利用者の尊厳ある自立支援であるとの見地から、家族・本人の意向を大切に、センター方式の応用により臨機応変な介護計画の作成に努めて居ます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護支援記録の記入や連絡ノートの活用により情報の共有と実践 必要があれば介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて対応していく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医を主治医とし、月2回の定期往診と緊急時の指示や往診があり、主治医が利用者様の状況を常に把握できるように連絡を取るにより良い関係が築けている	専門医の診察頻度が多い1名の利用者のほか、すべての利用者のかかりつけ医は事業所の協力医である関係で受診関係も円滑に行われています。1名のかかりつけ医でない利用者も協力医としての関係は良好です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師がいる為、看護師と主治医との連携により適切な対応が出来る。夜間も電話すると主治医が即対応してくれる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し主治医から医療機関への紹介があり、入院時・退院時の情報提供も行われている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に十分説明をさせて頂き、本人・家族の希望の確認と、その事態を迎えるにあたりカンファレンスを通して今後の方針を共有している	最良の介護、支援のもとで長く生活して居られるホームでの利用者の高齢化は、老衰による看取り支援も避ける事は出来ないとの見地から、主治医の意見を大切に、ご家族からの看取りに関する指針の提示・承諾書も取得し万全を期しています。職員も相応の研修が為されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時の対応を勉強会を通して訓練している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を頂き年2回訓練を実施している	消防署関係の諸訓練は定期的に行われ、屋根にはソーラーシステムが採用されオール電化により災害時等、考えられるデメリットを極力抑えるよう工夫された施設です。備蓄についても定期的な点検が怠りなく実施されています。	災害時等、地域の協力体制がどのようなカタチで機能するか、見えない部分をどのように解決するか期待致したいと考えます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を損なわないように、生活歴やお人柄に合わせて言葉かけや対応をしている	法人全体で取り組んでいる柱として、ホーム長以下職員全員が意識して取り組んでいます。特に、不穏な表情になり易い利用者への対応には、全員で話し合い統一した言葉かけで接するよう徹底されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人主体の介護を実施し、その人らしく生活ができるような環境作りをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のその時々に合わせて過ごして頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回の美容院の訪問により整髪し、常にきれいに洗濯されたものを自身で選び、時には一緒に選びながらきれいである喜びを感じてもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、盛り付けたりすることで食事がより楽しみなものになったり、職員と一緒に同じものを食べ片づけることで食事の時間を楽しむ事が出来ている	常勤の栄養士によりカロリー計算されたメニューが作成され、厨房と各ユニットの配膳スポットで毎回準備されます。各ユニットでは、会食前後、各自持ち場を心得た利用者が手伝い、食事介助が必要な利用者も一緒にテーブルで食事介助の支援を受けながら職員と会食します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が栄養のバランスを考え、カロリーコントロールした献立を立て、食事、水分摂取量をチェックし個人に支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは必ず行い、できない部分は介助している 歯科医師の往診もあり、定期的に口腔内をチェックしケアしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつに頼らないの理念のもと、個人にあった排泄パターンを調べながらトイレで排泄できるように支援している	事業所理念の一つの柱でもある「おむつに頼らない」快適な生活を実現するために、排泄パターンを理解しての支援や自尊心を傷つけない声かけにより、入所時、失禁が多かった利用者が短期間に、自ら進んでトイレに行く事例も見られました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬膳や香酢を使い野菜中心の食事を提供し毎朝散歩も実施している 排便パターンも調べ観察している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきの入浴と希望があれば毎日でも入浴していただいている 出来ない事は介助にて無理なく入浴している	入浴に関して拒否反応を示す利用者も居らず、入浴介助は円滑に行われています。職員のアドバイスで、浴槽内でリハビリ運動を試みるなど、浴槽内での会話も弾んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には日中は起きていて頂いているが、個人の体力なども考慮して休んでもらいたいしながら、夜間は安心して気持ちよく眠ることができるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	勉強会にて理解をしている 看護師や主治医と相談しながら処方して頂き、記録・チェックをし確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で自分の役割を感じて頂けるように出来ることは何でも手伝ってもらい時には相談しながら過ごしていただいている 楽しい時間が過ごせるように行事も考え実施している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食や買い物ツアー、気候の良い季節にはお弁当を持参しドライブに出かけるなど行事の計画を立て外出したり、家族にも協力して頂きながら外出の機会を作っている	日々の季節を感じていただけるように、散歩の支援は欠かさず、一日2～30分を目安に利用者のADLに応じた支援をしています。利用者側からリクエストが多い外食では回転ずし、買い物ではシマムラ。ご家族の協力を得ての季節のドライブ等、実施されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金や貴重品の持ち込みは禁止している 買い物に出かけた際にはこちらで用意したものを持参し支払い使っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も手紙も自由にやり取りして頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造の建物で温かみのある空間となっており、窓が大きい為明るく開放感がある。照明は暖色となっており落ち着いて生活が出来る	施設内の共用空間は床暖房が施され、職員は冬でも半袖、上履きやスリッパは使用せず良く磨かれた床には塵一つ有りません。広い中庭は植木スペースを除きすべてデッキ、囲む窓や引戸も広いガラス張りで採光も良く、明るく穏やかな一日を過ごせるよう演出してくれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭のデッキで土いじりを楽しんだり、日の当たりの良い廊下で日向ぼっこをしたり ソファで談笑したり、お好きな場所で思い思いに過ごしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたなじみの家具や椅子を持ち込んで本人の落ち着ける空間になっている	各居室とも、利用者各位の生活歴を物語るような家具や小物を持ち込み、お一人で居ても、安心して寛げるような雰囲気が拝見出来ました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりが要所要所に設置しており、好きなどころに安全に移動することが出来る トイレの場所も居室の横に設けてあり手すりもあることによって安心・安全		